

## エコカー市場の最前線

Vol. 3

～ エコカー多様化元年がもたらす「リユース」の潮流 ～

「エコカー」という言葉が市民権を得て約3年が経ちました。ネットでは、2011年1月1日～9月30日の期間に「エコカー」に関する1390万件の記事が見つかります。これは同期間の「ディズニーランド」の検索数581万件を優に超える数で、既に2007年の実に10倍に達しています。

また消費者が選択できる車種の数も格段に増えています。トヨタ自動車株式会社だけをとり、

プリウス1車種だったハイブリッド自動車(HV)が、いまや14車種(11月現在、レクサス含む)にまで拡大していますし、電気自動車(EV)のほうでは三菱自動車工業株式会社のアイ・ミーブ、日産自動車株式会社のリーフといった国産勢に負けじと、BMW「MINI E」が日本での実証試験を開始しています。もちろん、ガソリン車の低燃費化も目覚しく、アイドリングストップの採用で各社リッター20km～

30km(10・15モード)を達成しています。

2012年以降も、トヨタ自動車の量産EV、プラグインHV参入予定、米テスラ社のような海外新興EVメーカーの参入など

エコカーの話題は目白押しです。

### 震災後の節電ブームは 追い風か、逆風か？

ところで「エコ」というこの言葉、元々は「環境保全」のために行う活動や意識でしたが、いつのまにか「節約」というニュアンスを帯びるようになりました。そして今年3月の大震災を期に「節電」という要素が大きくフォーカスされてきたのは記憶に新しいことかと思いますが、これはEV車にとって思わぬ影響を与えることになりました。

あまり大々的に報道されていないため意識されていない方も多いかも知れませんが、電力不足という国家的緊急事態に「電気がないと走らない」EV車の是非を問う人たちが現れたのです。「充電する車が増えると今より電力不足が深刻になる?」、「いやいや深夜電力を使えば問題はない?」、「理屈ではなく心象の問題であり配慮がない?」、さて皆さんはどのようにお考えでしょうか。

そんな一般生活者の声を確認すべく、当研究所で緊急アンケートを行った結果、意外にも支持/期待派が5対1で不安/慎重派を上回り、ことさらに電力不足の問題と関連付けをする人もいませんでした。そして支持/期待する理由は「エコ」、「環境」、「省エネ」、「時

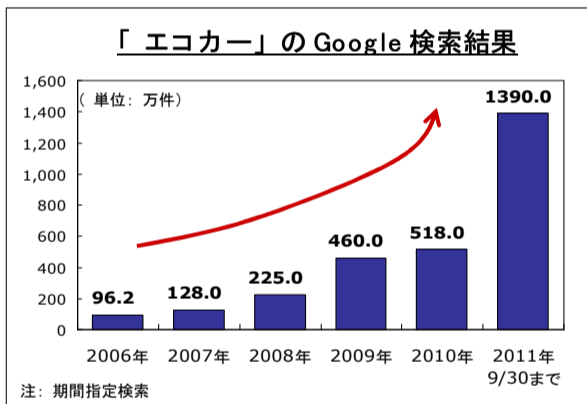
代の流れ」となっています。

確かに、EV車が従来のガソリン車や生活家電と決定的に違う点は駆動するために「蓄えた」エネルギーを充電式の乾電池のように簡単に引き出して「再利用(リユース)」ができる点であり、これまでと違うニュアンスで省エネと言えそうです。(HV車も同様)これは一方的にガソリンや電気を「消費」してきた今までの私たちの生活において、少なくともこのスケール感では存在しなかった発想です。

### すでに始まっている 身近な「再利用」の動き

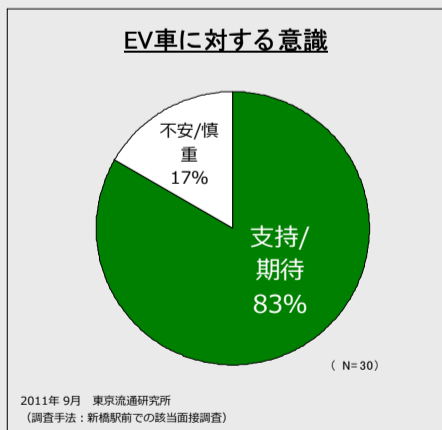
緊急時に限らず、EV車をいつでも使える「便利な補助電源」としてPRする動きはすでに始まっています。従来のガソリン車についていたシガーソケットで供給できるのは100W以下の携帯電話(5W)、電気シェーバー(5W)、扇風機(25W)、ノートパソコン(30W)程度でしたが、HV車やEV車の駆動用バッテリーは電気ポット(1000W)や炊飯器(1200W)にも対応でき、三菱アイ・ミーブは一般家庭の約1.5日分、日産リーフは約2日分の電気使用量を賄えると各社は発表しています。

またこの夏は、盆踊りなどの屋外イベントでEV車が「補助電源」として活躍する姿を目撃された方



### 緊急アンケート：あなたはどっち？

#### EV車「支持/期待派」vs「不安/慎重派」対決



＜回答の理由＞ 抜粋して掲載

#### 支持/期待派

- ガソリン使わない(女性20代)
- エコ、省エネ(男性30代)
- 環境(男性40代、50代)
- 時代の流れ(女性60代)

#### 不安/慎重派

- × 充電スペース(女性20代)
- × 走行距離に問題(男性30代)
- × 進化しすぎ、無音(男性50代)

＜PR＞

## e燃費

一般ドライバー会員 約50万人  
全国の【実燃費】を車種別にランキング!

ついに iPhone、android アプリも登場! carlifenavi.com で、あなたと一緒にエコドライブしませんか。

＜PR＞

電気自動車 誕生  
比較サイト  
www.ev-car.info

電気自動車  
で  
検索!

削れるところ、  
まだありました。

購買革命  
デ・カップリング  
E-Graphics Worldwide

もいるのではないのでしょうか。

実際に給電可能なアイ・ミーブ（取材時は試作機）を野外イベントに提供している三菱自動車工業株式会社広報部によれば、「被災地へアイ・ミーブを貸し出した際に炊き出しの電源として使えないかという要望が挙がったことで、それ以前から検討していた給電機能が実用化に向けて加速した」とのことです。また、夏祭りの音響設備の電源として6時間ほど利用した例では「2目盛り分しか減っていなかった」と、そのポテンシャルの高さについてお話をしました。

（注：現状は満充電で16目盛り）

実際、このような「再利用」への動きは他にも顕著に見られるようになりました。同じクルマ業界の中で言えば、震災特需で一時的に高騰した中古車市場です。当然、震災直後は「走れば何でも」というやむを得ない事情があったとは言え、「あ、中古でも何とかなるものだな」「いやむしろ、これで申し分ない」と気づいてしまった消費者もいるのではないのでしょうか。

**新たな市場を切り開く、ニッポンの「勿体ない」精神**

地デジで大半の家庭がテレビを新しく買い替えたように報道される中、「まだ十分使える」アナログテレビに外付けの地デジチューナーを

接続して対応するユーザーが殺到したと言われています。（2011年7月、BCN）これは単に「地デジ内蔵の薄型テレビが品薄になったから」とは片付けられない事象と言えます。

同じ精神が支えているビジネスは衣料、家具、マンションなどの分野で一足先に成立しています。海外から輸入した古着の販売を中心に成功している HANJIRO（はんじろう）は、1号店を盛岡に立ち上げた1992年以来徐々に店舗数を増やし、いまや全国の主要都市に20店舗を構え、50億円の売上を誇る企業になりました。

2011年5月のGooリサーチの発表によれば、消費者の60%が中古品を受容しているだけでなく、そのうち21%が「昔は抵抗感があったが、最近は抵抗感がなくなった」と回答し、中古品に対する抵抗感が急速に薄れているとしています。

さて、ここでもう一度自動車業界に話を戻してみましよう。このリユースの潮流の中で当研究所が特に興味深く感じたのが、中古車のガソリンエンジンを「電気モーター」に載せ替える「改造EV」というビジネスです。

どのような選択肢があり、費用はどのくらいかかるのか、神奈川県横浜市のオズコーポレーション（OZ Motors）の例でご紹介しましょう。

**都内の子供祭りのために電源供給するEV車**

お祭りの自粛という話が多かったこの夏、恒例のチビッコ祭りの開催にあたって「節電のことは、とても気になっていました」と語る東京都港区芝商店会の関根



寛さんは、一部の電源をアイ・ミーブから供給できて「良かった」と、その当時に振り返って取材に答えてくれました。商店会との友好を築いて3年目の三菱自動車に対して、今後は「商用車にも期待」とエールを贈っています。

（取材協力）  
東京都港区 芝商店会  
デリカテッセン ジル  
関根 寛 さん



改造費用は軽自動車タイプで85万円から、小型車で115万円から可能で、車種によっては「最高時速130km、航続距離50kmを実現した」というデータもあるようです。

ガソリン車であれば、現状は同型の新車を買う値段ですが、逆に新しく「HV車に買い替える」場合と比較すると検討の余地があるかも知れません。また費用的に難しいという方には「後付けアイドリングストップ装置」（5万円前後）を買うという選択肢もあるため、まだ乗れる愛車を手放すことなく、相当の燃費改善を手に入れることができる訳です。

2005年に公開された米国のアニメ映画「ロボッツ」は、ピカピカの新車ボディを売って儲けようとするエリートビジネスマンロボットと、中古部品でカラダを補修することもまま

ならない貧しい主人公とその仲間たちの対決を描いていますが、確かにこれまでの私たちは「新しい」ものを作る/買う、そして「古い」ものは壊す/捨てるという消費スタイルをとってきました。それは「ものづくり大国ニッポン」のプライドだったのかも知れません。

しかし震災を期に市場の生活価値観が大きく変化した今日、古きよき日本人の「勿体ない」精神が確実に見直されています。冬へ向けて再び節電意識が高まると予想される中で、EV車が新しい形の「勿体ない」消費の象徴となれるのでしょうか。そしてこのような潮流に対して、あなたの会社・業界では果たしてどのようなことができるのか、議論を交わしてみたいかがでしょうか。

< PR >

ResearchするMomとつくる保護者&教育関係者向けサイト

**ReseMom** リセママ

気になる...  
の答えを見つけよう。

回答する

さあ、あなたも  
いますぐ  
リセママ・デビュー！

**resemom.jp**

**エンジンだけを載せ替える改造EVとは？**  
（オズコーポレーションのホームページ <http://www.evdrive.jp> より抜粋・引用）

改造EVは、既存のガソリン車のエンジンを外し、モーターと電池で走るようにした電気自動車（EV車）です。メリットとしては、① 温室効果ガス削減の直接的な促進（ガソリン車をEV化する）、② 新車製造による新たなCO2の排出を抑制（ボディを再利用するため）、③ 昔ときめいた「あの名車/旧車」の復活が容易（エンジンの載せ替えのみ）、④ EV車の大量購入と比べて安価に社会貢献が可能（営業車・配送車をEV化）が挙げられます。個人・企業を問わず、どんな乗り物でも（オートバイでも）簡単に安価にEV化することが可能です。

ラインナップ	対象車種	製作・費用（税別）
6kwモーター・96V仕様	軽自動車向き	85万円～
10kwモーター・96V仕様	軽ハイパワー・小型車向き	93万円～
16kwモーター・120V仕様	小型・中型車向き	115万円～
21kwモーター・144V仕様	中・大型車向き	135万円～

**TRK Topic in FOCUS** 発行 東京流通研究所（不定期）  
Tokyo Ryutsu Kenkyujo

東京都中央区銀座6-17-2 電話 03-3545-7704 E-グラフィックス コミュニケーションズ株式会社 CP局 内  
取材/執筆：特別研究員 木村 純 監修：所長 兼 上席研究員 宮崎 陽介

**法人の方へ お客様用にもお使い頂ける100部単位のお届けも承ります。ご相談ください。**

問い合わせ/各種ご相談は E-グラフィックス コミュニケーションズ営業担当者  
もしくは [PR@e-graphics.com](mailto:PR@e-graphics.com) までお願いします。